

## 実践のまとめ（第6学年 道徳科）

十日町市立十日町小学校  
教諭 樋口 智哉

### 1 研究テーマ

#### 他者の意見から考えを深める子の育成 ～自分の考えを基に、友達と交流し合う活動を通して～

### 2 研究テーマについて

#### (1) テーマ設定の意図

少子高齢化や情報化の急速な進展など、現代社会の変化は物質的な豊かさとともに、価値観の多様化や人間関係の希薄化をもたらしている。子どもたちの意識や行動もその影響を受け、他者との違いを認めて受け入れる心や規範意識などが十分に育っていないことがよく指摘される。このような現状を踏まえると、豊かな心を育てる道徳教育の役割がますます重要となる。

「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説『特別の教科 道徳編』」には、「物事を多面的・多角的に考える指導のためには、物事を一面的に捉えるのではなく、児童自ら道徳的価値の理解を基に考え、様々な視点から物事を理解し、主体的に学習に取り組むことができるようにすることが大切である」と示されている。また、「新潟県いじめ防止基本方針（令和3年7月改定）」では、いじめの防止等に関する基本的な考え方の中で「全ての児童生徒に、豊かな情操や道徳心、自分の存在と他人の存在を等しく認め、お互いの人格を尊重し合える態度、主体的に問題の解決に向かおうとする構え等、心の通う人間関係を構築する能力の素地を養う」と明記されている。

本校教育目標は「ひろく考える子 みんなにやさしい子 心と体をきたえる子」である。徳育に関わって、「みんなやさしい子」の育成を掲げ、教育活動を進めている。

思いやりのある豊かな心を育てるためには、自己理解・他者理解を共に深める道徳教育の在り方が必要となる。教科リーダー育成講座1年次では、発問構成の工夫をテーマとして研究に取り組んできた。自身の問題として考えたり、自分との関わりで捉えたりする姿から、一定の成果が得られた。一方で、他者との関わりの中で新たな視点に気付いたり、自己の考えを深化させたりすることに課題が残った。多角的に捉えるためには、課題と真摯に向き合うことに留まらず、多くの考えに触れる時間と手立てが必要だと感じた。

そこで、対話的な学びとなるようなペアやグループでの交流後、学級全体で話し合うような活動を工夫して、自他の考えを比較しながら自分のよさや課題に気づき、それを互いに認め合い、深めた道徳的価値を実践しようとする意欲を持たせることが必要であると仮定した。本研究では児童相互の対話を通して多様な価値観に触れ、自他の違いに気づき、よりよい環境や社会をつくるために、お互いの立場を認め合うことができるようになることを願い、本テーマを設定した。

#### (2) 研究テーマに迫るために

##### ① 授業の展開に即した発問構成の工夫

本時では、永田繁雄(2017)が提唱する「道徳発問区分」に基づいて学習を展開する。永田は、以下の視点を基に発問の立ち位置を4つの区分（A～D）に分けている。【表1】に示すように主人公（教材）に自分を重ねているか、客観的に見ているか、主人公（教材の登場人物）の心情や考えを明らかにするか、自分自身の気持ちや考えをもち意識するかという観点である。永田はこれらの発問を授業の中で効果的に構成することで、「児童が教材を通して自己の価値観を確認・修正し、より深い学びと自らの道徳的判断力を伸ばすことができる」と説いている。

【表1】 永田繁雄による発問の立ち位置・4区分

	主人公を自分に重ねる	主人公を客観的に見る
主人公の心情や考えを明らかにする	<u>「A 共感的発問」</u> 例) ～はどんな気持ちか ～はどんなことを考えているか	<u>「B 分析的発問」</u> 例) ～がしたのはなぜか ～から何が分かるか
自分自身の気持ちや考えをもち意識する	<u>「C 投影的発問」</u> 例) 自分だったらどう考えるか 自分が～になったらどうするか	<u>「D 批判的発問」</u> 例) ～のことをどう思うか ～は本当にそうしてよいか

※永田繁雄『「特別の教科」時代の道徳授業をつくる』2017 南魚沼市学習指導センター研修講座・道徳教育講演会

学習指導要領解説で挙げている発問の工夫や永田が提示した「発問の立ち位置・4区分」に基づき、教材から道徳的価値に導くための発問を用意する。

## ② 話し合い活動の工夫

対話的な学びとなる話し合い活動の工夫を行うため、以下の手立てを考えた。

### ○ペア→グループ→全体での交流による、話し合いの活性化

学級全体で交流する前に、次のような形態で話し合うことを考えた。ペアで話し合うことは、1対1という必ず聞いてくれる人を相手に伝えるので、聞いてもらえる安心感がある。相手から話を聞いてもらえた承認をもらえるため、自信を得ることにつながる。話し合いでは、根拠を意識して自分の考えを伝えたり、友達の考えを聞いたりできるようにする。児童が自信をもって考えを伝え合うことができるようになったところで、話し合う人数を増やし、グループ（3人または4人）から学級全体での話し合いに移行する。学級全体とすることで、より広い視野で自分の考えを振り返り、考えを広げたり深めたりできるようにする。

### ○シンキングツールの活用

児童が考えの変容に気付くために、シンキングツールを用いる。児童はこれまでにダイヤモンドランキングやXチャート等のシンキングツールを用いて学習に取り組んできている。本時では、「『広い心』とはどのような心か」というテーマに対して、クラゲチャートを用いる。クラゲチャートは、問題解決や課題整理に効果的なシンキングツールである。チャートに視覚化された情報を基にして、意見共有や質問の活性化を図りたい。一人だけで作成したり、意見を羅列したりすることにならぬよう、グループ全体で意見を交換しながら作成する過程を大切に授業を展開していきたい。

## (3) 研究テーマにかかわる評価

対象児童の反応やワークシートの記述からその変容を整理し、学習意欲の高まりや道徳的価値への理解が深まる様子を検証する。【表2】

【表2】 本研究における見取りの視点

自分自身との関わりの中で道徳的価値を深めている児童の姿	発言・記入例
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教材の登場人物を自分に置き換えて考え、自分なりに具体的にイメージして理解しようとしている児童</li> <li>・今までの自分自身を振り返り、自らの行動や考えを見直していることがうかがえる児童</li> <li>・道徳的な問題に対して自己のとり得る行動を他者と議論する中で道徳的価値の理解を更に深めている児童</li> <li>・道徳的価値を実現することの難しさを自分のこととして捉え、考えようとしている児童</li> </ul>	自分だったら… 私が…したとき あの時は…だったな これまでは…だったから 今までは…と思っていたけど 相手の気持ちを考えて… でも…されるのが心配 …のつもりでも、相手にとっては～かもしれない

多面的・多角的な見方に変容する児童の姿	発言・記入例
<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳的価値にかかわる問題に対する判断の根拠やその時の心情を様々な視点から捉え考えようとしている児童</li> <li>・自分と違う立場や感じ方、考え方を理解しようとしている児童、他者の考えに対して、共感したり、質問したり、批判をしたりしている児童</li> <li>・道徳的対立が生じる場面において、多面的・多角的に考えようとしている児童</li> </ul>	○○の立場だったら…だと思う  ○○さんに似ていて（共感） ○○さんの考えと違って（批判）  （相手のことを考えて） …すればよかったかもしれない。
自分の生活やこれからの生き方について考えている児童の姿	発言・記入例
<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳的価値にかかわるよさを実感している児童</li> <li>・これからの自分の生活につなげようとしている児童</li> </ul>	…することはいいことだと思った もっと…していきたい

### 3 指導計画

#### (1) 主題名

広い心で（内容項目 B-(11)相互理解、寛容）

#### (2) 教材名

「ブランコ乗りとピエロ」（光文書院 道徳6年）

#### (3) 主題設定の理由

##### ① ねらいとする道徳的価値

学校や社会生活を送る中で、自分の考えを無理に押し通そうとしたり、勝手な振る舞いをしたりして、周囲の人たちとトラブルになることがある。それは、自分の考えや意見が常に正しいという思い込みや、他者を受け入れようとしない態度が要因と考えられる。

考えの異なる相手と関わり合って生活するためには、自分勝手な振る舞いを控え、他者を理解する気持ちが大切である。そのために、自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、異なった意見に対して広い心を持ち、相手の立場を尊重する心情を育てることが求められる。

##### ② 児童について

本学級は、男子8名、女子14名の計22名である。学級の雰囲気は穏やかで、大きなトラブルは少ない。一方で、他人の意見に流されやすく、自分の考えや意見を表出できない児童が多い。また、人間関係の広がりがあり見られず、考えや意見が近い者同士だけで集まり、そうでない者を遠ざける傾向が強いため、友だちに嫌われたくないという思いから、自分の考えや意見を言わずに友だちに合わせて行動してしまう児童もいる。

そのような学級の課題を踏まえて、自分と相手のものの見方、考え方の違いを認識し、自分とは異なる意見や立場を尊重することで、相手の過ちに対しても、自分にも同様のことがあることとして謙虚な心、広い心で受け止め、適切に対処できるよう導いていきたい。相手の考えや意見を尊重しつつ、自分の考えや意見を伝えることの大切さや、違いを生かしたよりよいものが生まれることの良さに気付かせたい。

##### ③ 教材について

本教材である「ブランコ乗りとピエロ」は、サーカスのリーダーであるピエロが、自己中心的な振る舞いをするブランコ乗りのサムに一方的に腹を立てていたが、誰よりも真摯に演技に向き合っているサムの姿に接し、自分自身を振り返り、広い心と謙虚さを取り戻して、互いの心を通い合わせる話である。ピエロの心や行動の変容を自分と他者との関わりと重ねて考えることで、児童に、他者に広い心で接して、自分と異なる立場や考えを受け入れることの大切さについて深く考えさせたい。

#### (4) 他の教科、領域との関連について

	教科・領域	道徳科	教育活動
1 学 期	国語「さなぎたちの教室」 「風切るつばさ」 社会「ともに生きる暮らしと政治」 「わたしたちの暮らしを支える政治」「日本の歴史」	「1年生のお世話係」 C-16 集団生活の充実 「ナイスリターン」 「修学旅行の自由行動」 B-11 相互理解、寛容	入学式（4月） やまびこ班活動（4月～） 城ヶ丘ふれあいカーニバル（5月） クラブ活動（6、7月） 修学旅行（7月）

2 学 期	国語「海のいのち」 社会「日本の歴史」	「ブランコ乗りとピエロ」 B-11 相互理解、寛容 「勇太への宿題」 A-4 個性の伸長	親善陸上大会（9月） 城ヶ丘ふれあいフェスティバル（10月） 郡市音楽交歓会（11月） 城ヶ丘三施設ビッグフェスタ（12月）
3 学 期	国語「宇宙への思い」 家庭「共に生きる地域での生活」 総合「卒業プロジェクト」	「めざせ、180回！」 B-10 友情、信頼 「わたしはひろがる」 D-22 よりよく生きる喜び	6年生を祝う会（2月） 卒業式（3月）

### （5）本時のねらい

サムに対するピエロの心情の変化を通して、自分と異なる意見や立場を広い心で受け止め、互いを理解しようとする事のよさを感じる心情を育てる。

### （6）展開

時間	学習活動 (○発問や指示・予想される子どもの反応)	* 指導上の留意点 【評価】
導入 5分	1 本時で扱う道徳的価値について問題意識をもつ。 ○「広い心」とはどのような心だと思いますか。 ・優しい心 ・相手を許せる心  ○今、「広い心」をもって生活できていますか。 ・相手の考えによっては許せないこともある。 ・誰にでも「広い心」を持てる訳ではない。	* 「広い心」とはどのような心かを、事前に考えまとめたものを示す。 ※ICT 機器によるアンケート提示 * 児童個人が事前にまとめたものはワークシートで確認できるようにしておく。 * 広い心をもつことは大切であるが、できなかった経験を想起させることで、理想と現実のギャップに気付かせる。
展開 35分	「広い心」について、みんなで考えよう  2 教材を通して、道徳的価値についての考えをもち交流する。 ○【前半部分】のピエロとサムを整理しよう。 (全体 6分) ◆ピエロについて ・サーカス団の古くからのスター ・団員たちをまとめるリーダー ◆サムについて ・半年前、他国の大きなサーカスから招かれた。 ・スター気取り  ○ピエロの中から、サムを憎む気持ちが消えたのはなぜでしょう。【B分析的発問】 (個人→ペア→全体 6分) ・サーカスを成功させたいという思いは同じだったから。 ・サムのおかげで、サーカスが盛り上がっていると分かり、感謝の気持ちが出てきたから。 ・わがままな面もあるけれど、お客さんのために全力を注いでいると分かって尊敬できたから。 ・自分と比べて、サムの方が努力をしていると感	* 事前に教材文を読んで感想を記入しておく。  * 自由な発言への意欲を高めるために、教材文に対する思いを友達と話し合う時間を設定する。 * その意見を場面ごと【前半 最初～P105L9、後半 ～最後】に構造的に位置付けることで、児童が登場人物の心情の変遷に気付けるように支援する。 * 前半のピエロとサムの関係を補助発問として問うことで、児童が後半の関係の変化に気付き、「広い心」について考える足掛かりとなるようにする。 * 自分の考えをワークシートに書いて、考えを整理して話し合いに臨めるようにする。 * ピエロの会話部分に着目させる。

	<p>じ、見習っていきたいと思ったから。</p> <p>◎自分がサム or 団員だったら、ピエロの発言に対して、どのように考えますか。</p> <p>【C 投影的発問】 (個人 5 分→班活動 10 分→発表 8 分)</p> <p>◆サムグループ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のことを認めてくれて嬉しい。</li> <li>・自分も自分勝手なことばかりせず気を付けなければならぬ。</li> <li>・さすがサーカス団のリーダーだ。これからも共に頑張りたい。</li> </ul> <p>◆団員グループ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サムの良い所を素直に認めていてすごい。</li> <li>・自分の思いや悔しさを抑えて、サムを理解しようとする優しさがある。</li> <li>・自分たちもサムを憎むばかりではなく、認めて共にサーカスを盛り上げよう。</li> </ul>	<p>*活動の前にサムと団員では立場が異なることを確認する。</p> <p>*グループをサムと団員に分け、立場の違いから、多様で多角的な視点を考えられるようにする。</p> <p>*「広い心」を支える価値に迫るキーワードを強調して板書に位置付けることで、児童が納得解を見付け、自己の学びに生かせるようにする。</p> <p>*タブレットのクラゲチャートを活用し、児童の意見をグループや全体に共有できるようにする</p>
<p>終末 5 分</p>	<p>3 本時で扱った道徳的価値に対する思いや考えを振り返る。</p> <p>○今日の授業を通して気付いたことや、これからの自分について考えたことを書きましょう。</p>	<p>◆「広い心」について、話し合いで得た友達の考えを踏まえ、今後の生活をよりよくしようとする道徳的実践意欲を高めることができる。</p> <p>【発言・タブレット記述】</p>

### (7) 板書計画

サムグループ

😊

- ・認める
- ・周りを見る
- ・共にがんばる

団員グループ

😊😊😊

- ・素直に
- ・理解する
- ・認め合う



◎自分がサム・団員だったら、ピエロの発言に対して、どう考える？



テーマ 「広い心」についてみんなで考えよう

【前半部分】

😊 ピエロについて

☹️ サムについて

【後半部分】

自分勝手に目立ちたがり屋

目立って何が悪い

自分に嫉妬している

← 「サムを憎む気持ちが消えた」のはなぜ？

#### 4 成果と課題

##### (1) 授業の実際

###### ① 発問構成に関わって

授業前に児童に「広い心とはどのような心か」というアンケートを実施した。自由記述をテキストマイニングでまとめたところ、「優しい」「許す（許せる）」といった記述が多く見られた。その後、「実際に広い心をもって生活できているか」という問いに対して、児童の8割以上が「できる時とできない時がある」と答えていた。広い心をもつことの大切さを理解できていても、実際に行動に移すことでできないことへの難しさを感じていることがうかがえた。

また本時では、「B分析的発問」から「C投影的発問」（中心発問）へと展開した。「B分析的発問」では、以下のようなやりとりが見られた。

【B分析的発問】「ピエロの中からサムを憎む気持ちが消えたのはなぜか」に対する児童の意見（一部）

※Tは教師、A～Dは児童

A 1 「サムが肩で息をするほど頑張っていたから。」

B 1 「努力もしている。」

T 1 「だから許したのかな。」

C 1 「全部許したわけではないと思う。」

T 2 「なぜそう思ったの？」

C 2 「その後ピエロがサムに直してほしいことも言っていたから。」

→「C投影的発問」（中心発問）へ続く

この発問を通じて、児童発言A 1「サムが肩で息をするほど頑張っていたから。」、B 1「努力もしている。」とあるように、児童はサムの知られざる努力に気付くことができた。一方で、全面的にサムを許せるわけではなく、「直すべきところは直すべきだ」というピエロの思いについても理解することができた。

中心発問では、「自分がサム・団員だったら、ピエロの発言に対してどう考えるか」という投影的発問に対して、児童から以下のような発言が見られた。

【C投影的発問】「自分がサム・団員だったら、ピエロの発言に対してどう考えるか」に対する児童の意見（一部）

※Tは授業者、A～Dは児童

サムチーム

A 1 「これからは自分だけでなく、他の人のことも考えたいと思う。」

B 1 「ピエロの気遣いに感謝したい。」

T 1 「気遣いってどんなこと？」

B 2 「努力していることを団員に伝えてくれたことと、ちゃんと注意してくれたこと。」

団員チーム

A 1 「ピエロの心は広い。自分たちもそうしよう」

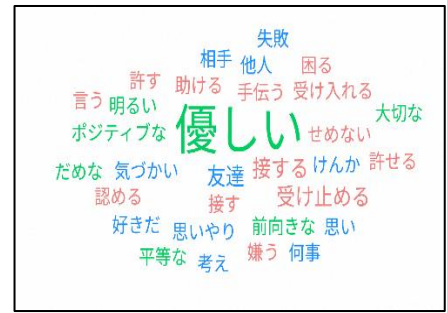
B 1 「サムの隠れた努力に気付いていてすごい。」

C 1 「サムは頑張っていることは分かったが、簡単には許せない。」

T 1 「頑張りには認めるけれど、許せないってこと？」

C 2 「これからのサムの行動によるかな」

サムチームは、自身の反省や感謝の思いを感じると答えた。ピエロの発言を直接受け止める側の心情なので、意見のばらつきは見られなかった。一方で、団員チームは、ピエロの発言に同意し、互いを理解し認め合える心でありたいという意見と、それでもサムの行ってき



【表3】 事前アンケート  
「広い心とはどのような心か」に対する児童記述のテキストマイニングによるまとめ

たことは許せないという意見があった。許したい思いと、まだ許すわけにはいかないという思いのジレンマを感じていると捉えることができる。授業開始当初の登場人物整理で、児童はサムを「自分勝手」と表現していたところから、ピエロの言葉に着目して考えたことにより、児童発言C2「これからのサムの行動によるかな」、C3「サムも他の団員のことが考えられるようになったら許すかも」など、サムを受け入れたいという気持ちに少し変化していることを読み取ることができる。

## ② 話し合い活動に関わって

本時では、分析的発問時にペアで話し合う時間を設けた。意見を述べることに極度の不安を感じる児童が多い実態の中、ペアで友達の考えや自分の考えを明らかにすることで、その後の全体の話合いでは、発言した全員が自分の意見を述べていた。

投影的発問（中心発問）では、グループから学級全体での話し合いに移行した。グループ活動では、一人一人が自分の考えを伝えるだけでなく、友達の考えに対して「私は～思う」、「でも〇〇だよ」等のやりとりが見られた。その後、グループで話し合ったことを全体で共有した際、異なる意見に対して反応するつぶやきも見られた。

また、「『広い心』とはどのような心か」という問いに対して、クラゲチャートを用いた。誰がどのように考えたのかを視覚化することで、音声言語で理解することが苦手な児童も前向きに参加する姿が見られた。

## (2) 研究テーマの評価に関わって

振り返りの視点として、「今日の学習での気づき」と「これからの自分について」の2点を示した。児童の振り返り（ワークシート）の記述から、上記【表2】で示した見取りの視点を基に、本時の価値にかかわるものを以下【表4】にまとめる。

【表4】 本研究における見取りの視点を基にした児童の振り返りまとめ

本研究における見取りの視点	記述が見られた児童数 (全22名、重複あり)
自分自身との関わりの中で道徳的価値を深めている児童の姿	
・教材の登場人物を自分に置き換えて考え、自分なりに具体的にイメージして理解しようとしている児童	3名
・今までの自分自身を振り返り、自らの行動や考えを見直していることがうかがえる児童	1名
・道徳的な問題に対して自己のとり得る行動を他者と議論する中で道徳的価値の理解を更に深めている児童	3名
・道徳的価値を実現することの難しさを自分のこととして捉え、考えようとしている児童	6名
多面的・多角的な見方に変容する児童の姿	
・道徳的価値にかかわる問題に対する判断の根拠やその時の心情を様々な視点から捉え考えようとしている児童	5名
・自分と違う立場や感じ方、考え方を理解しようとしている児童、他者の考えに対して、共感したり、質問したり、批判をしたりしている児童	2名
・道徳的対立が生じる場面において、多面的・多角的に考えようとしている児童	3名
自分の生活やこれからの生き方について考えている児童の姿	
・道徳的価値にかかわるよさを実感している児童	15名
・これからの自分の生活につなげようとしている児童	17名

- ・振り返りから、自分自身の関わりの中で道徳的価値が深まったと考えられる児童は13名だった。そのうち約半数が「広い心」をもつことへの理想をもちながらも、実行することの難しさを感じる記述であった。教材と実生活を結び合わせ、自分事として考えられたと捉えることができる。
- ・導入発問の「広い心をもって行動できているか」との問いに、「実際には行動できない」という考えを授業当初持っていた児童が、「〇〇さんの意見を聞いて、ピエロの心の大きさがよく分かった」、「私がサムの立場だったら、ピエロや他の団員に対して、今まで勝手なことをして申

し訳ないという気持ちを伝える」等の記述をした。このように、授業を通して考えに変容が見られた児童は10名であった。過半数に満たなかったことは今後の課題として挙げられるが、新たな考えを受け入れることに抵抗のある児童が多い集団であることを踏まえると、本研究が一定の効果を上げたと言える。

- ・自身の生活やこれからの生き方について考えている児童は17名であった。そのうち、「これからは…していきたい」等、自身の生活に取り入れたいという具体的な記述が見られた児童が8割となっており、道徳的実践意欲は向上したと捉えることができる。

### (3) 今後の課題

#### ① 児童にとって必要感のある発問

道徳的諸価値の理解を基に、自己を見つめ、物事を多角的に考え、自己の生き方を考える学習を通して、適切な行為を主体的に選択し、実践できる資質・能力を育てることが重要である。そのためには、教材の課題を自己と結びつけざるを得ない発問が不可欠である。また、児童の考えの根拠を問う発問や問い返しによって、道徳的価値の意味を考えさせることも必要となる。授業者には、これらの発問や問い返しを、児童が必要であると感ずるよう効果的に構成していくことが求められる。教材の内容を深く理解するとともに、児童の実態を的確に捉え、育てたい道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を引き出すことができる発問を構成し、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養っていき、日々の学校生活や日常の社会生活に生かすことができるよう支援したい。

#### ② 「対話的な学び」の視点の再考

対話的な学びの実現には、児童が自分と異なる意見と向き合い、相互理解の糸口を見出すために議論することが重要である。本研究では、「他者の意見から考えを深める子」を目指し、「話し合い活動の工夫」や「シンキングツールの活用」を手立てとして取り組んできた。しかし、グループによってはタブレット端末を注視するあまり、話し合いを発展させることができなかつたところもあった。今後は、児童の実態をより正確に把握し、互いに考えを伝え合える関係性の構築にも努めていきたい。その上で、児童が異なる意見を尊重し、よりよい方法を見出したり学びを得ようとしたりできるよう、ICT機器の活用方法も含めた効果的な指導方法を学んでいきたい。

#### <参考文献>

文部科学省『小学校学習指導要領』、東洋館出版社、2017

永田 繁雄『「特別の教科」時代の道徳授業をつくる』、南魚沼市学習指導センター研修講座・道徳教育講演会補助資料、2017

沼田 義博 道徳教育8月号「議論する道徳に変える『発問&問い返し』研究」、明治図書、2019